

い、世界の産業の将来を担うリーダーを、バトンを手渡すかのごとく継続的に社会に送り出すことを主眼としています(図1)。そのために産業界から着任した教員と学内の教員とが協力して、このプログラムを推進しています。

このプログラムでは次のような科目が開講されています。講義と実習を通して異分野との連携に必要な先端的デバイスの基盤技術を学ぶ科目や異分野連携・融合の先端的応用として、脳科学など生命科学とセンシング技術の融合についての基礎知識や方法論を学ぶ講義、技術の専門性を背景にしながらグローバルに活躍するための英語コミュニケーションなどです。中でも特徴的な科目は、次代を担うリーダー養成を目的とした、テラーメイド・バトンゾーン講義とスーパーリーダー塾「トップと語る会」と言えます。テラーメイド・バトンゾーン講義は、各界でオピニオンリーダーとして活躍する企業のトップや産業界を震撼させた発明をした技術者・科学者を招いて、体験やアドバイス、発明・発見を世に出す苦労などを講演していただくことによって、実践的・創造的“智”を涵養する講義で

す(図2)。さらにスーパーリーダー塾では、そうした企業や技術開発のトップを囲んでの懇談を通じて直接の指導を受けます(図3)。これまでに、企業のトップとして旭化成株式会社 取締役最高顧問 蛭田史郎氏、技術開発のトップとしてHEMT(高電子移動度トランジスタ)の発明で世界的に著名な、株式会社富士通研究所フェロー 三村高志博士に講義をしていただきました。こうした産業界の情報を豊富に取り入れた科目を今後いっそう充実させていく予定です。

さらに、このプログラムでは、学費の支援、海外での研修への支援を行うなど、さまざまな角度から履修学生をサポートしていきます。現在、こうした新しい取り組みの下、博士課程の精鋭が育ちつつあります。



図2.企業トップ(旭化成株式会社 蛭田史郎最高顧問)によるテラーメイド・バトンゾーン講義



図3.企業トップ(旭化成株式会社 蛭田史郎最高顧問)を囲んでのスーパーリーダー塾